

令和 3 年 9 月 1 日

教会長殿

総務部副部長 和田恵久巳

### セリッチ師公開書簡についてご案内します

アフガニスタンの混乱する事態をニュースなどで見聞きし、命がけで脱出を図ろうとする方々や爆弾の犠牲になる方々の映像を目にして、苦しい想いを抱き、心を痛めていらっしゃると思います。今回、ボスニア・ヘルツェゴヴィナのムスリムの指導者でありますムスタファ・セリッチ師のタリバンの指導者にあてた公開書簡をお届けさせていただきます。



セリッチ師は、長年、WCRP/RfP 国際で共同会長を務められ、現在は名誉会長のお役をされています。ボスニア紛争直後の 1997 年、当時の WCRP 国際事務総長であったベンドレイ博士とともに会長先生はボスニア・ヘルツェゴヴィナを訪問し、イスラーム、セルビア正教、カトリック、ユダヤの指導者とそれぞれにお会いしました。翌年（1998 年）に予定されていた WCRP の国際役員会と本会の創立 60 周年式典にご招待するためでした。当時は、紛争の影響で互いの交流は断絶しており、母国では一堂で会うことができない状況でした。

首都サラエボでイスラーム最高指導者であったセリッチ師にお会いした会長先生は、師の筆舌に尽くせない紛争中の苦しみや悲しみにじっと耳を傾けられていました。他の 3 人の指導者たちとの出会いもまったく同様でした。

こうして、紛争後まもないボスニアに危険を冒して来られた会長先生たちの熱意を受け、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの宗教指導者の皆さんは、翌年、来日されました。会長先生に東京で再会されたセリッチ師は、――紛争中は、支援の名目で外国から利得がらみのいろんなアプローチがあり、サラエボで庭野先生にお会いするまでは、WCRP 訪問団も同じような目的ではないか、という疑いの気持ちがありました。しかし、お会いして、心から私の話を聞いてくださる会長先生のお姿を見て、この方は本当に私たちの幸せを願ってくださっていると実感したのです。そして今、東京に来て、あの心優しい庭野先生が、こんなにも大きな、そして立派な宗教組織の会長であられたことを知り、ますます心から尊敬の念を抱きました。一生の友人でいてください――と涙ながらにお話しされたのです。以来、お二人は堅い絆で結ばれました。それから国際会議などで会長先生にお会いするたびに満面の笑顔で駆け寄られ、親しく交流をされています。



往きの飛行機のなかでは紛争のトラウマのために4人の指導者の方々は互いに一言も言葉を交わすことはなかったそうですが、約一週間の東京滞在で対話を重ねながら深い信頼と友情を取り戻し、帰国後はセリッチ師が中心となり、来日された宗教指導者の方々とともにボスニア・ヘルツェゴヴィナで WCRP 国内委員会を立ち上げ、分断や対立、ヘイトスピーチに対し相互理解と信頼醸成のための教育プログラムなどを精力的に実施されています。

紛争の苦しみを味わい、困難な紛争和解を実践してきたセリッチ師が、リスクを背負いながら同じムスリムとしてタリバン指導者への手紙を発表しました。アフガニスタンで苦難の渦中におかれている方たちの命や生活が守られることを心よりお祈りいたします。

合掌

担当：渉外グループ（国際チーム：魚、廣田）